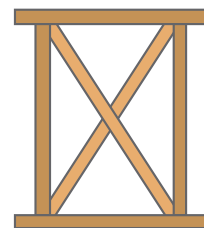
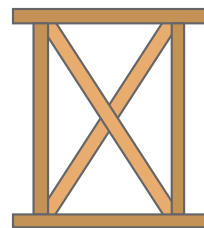
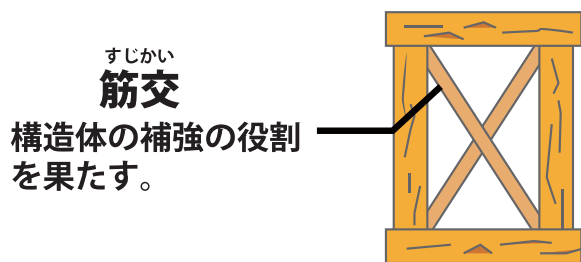


①耐震性能

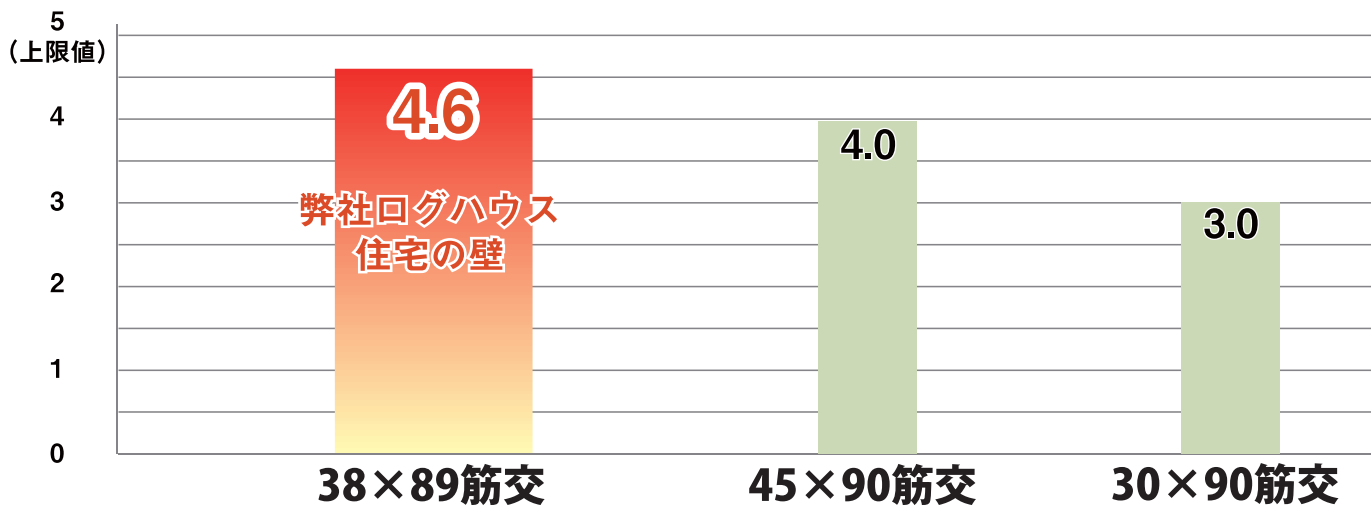
地震や強風などによって建物に揺れが生じた際に、損傷や倒壊などの被害を抑えられる事ができるかを表す耐震性能は、壁一面の強度を表す「壁倍率」という数値を計測する事で証明する事が出来ます。

一般的な壁の壁倍率比較



筋交仕様	38mm×89mm	45mm×90mm	30mm×90mm
壁倍率	4.6	4.0	3.0

「45×90 筋交」と「30×90 筋交」は建築基準法で決められたサイズ。



高壁倍率4.6の強度を実証

壁一面に横方向から力を加えて、変形に耐えられるかを測定する「耐力壁実験」にて、壁倍率 4.6 を記録しました。これは 9.01kN(約1トンの負荷に匹敵)の水平荷重に抵抗できる事が実証され、耐震性能が非常に高い事を証明する事ができました。

② 室内空気環境

建材などに含まれる化学物質が、室内の空气中に蔓延し体調不良などを起こすシックハウス症候群。国で定められている有害化学物質の空気中含有量を計測する事によって、安全を証明できます。

測定結果

科学物質名	指針値 (ppm)	弊社モデルハウス		指針値との比較
		リビング	寝室	
ホルムアルデヒド	0.080	0.014	0.013	約 ¹ / ₆
トルエン	0.070	0.004	0.003	約 ¹ / ₁₈
キシレン	0.200	0.002	0.002	¹ / ₁₀₀
エチルベンゼン	0.880	0.001	0.001	¹ / ₈₈₀
スチレン	0.050	0.001	0.001	¹ / ₅₀

※指針値→厚生労働省が有害と認定した各物質を含んだ空気を一生涯にわたって摂取しても、健康への有害な影響を受けないであろうと判断される値。



長い時間を過ごすであろうリビングで計測の様子

いつもさわやかでキレイな空気

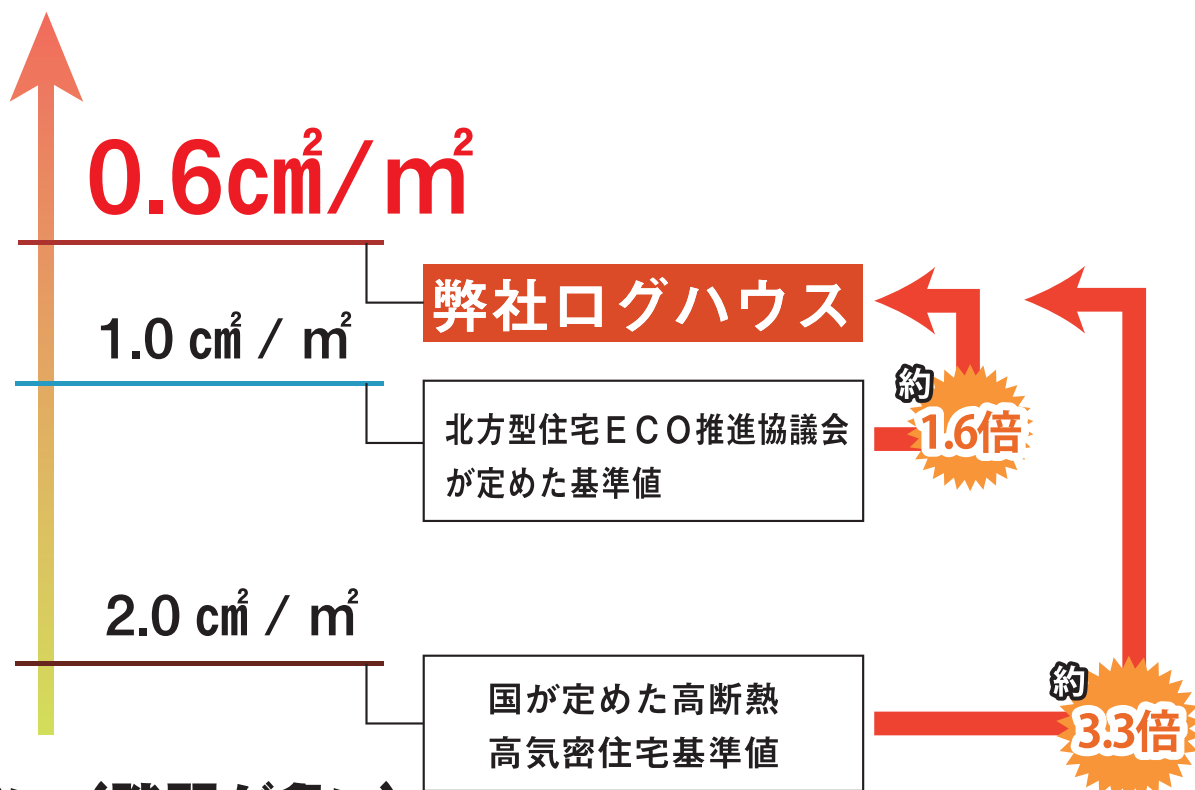
化学物質含有量の実測値と指針値を比較した結果、すべての項目で大変優れた室内空気環境である事が実証されております。自然のままの無垢材を多く使用した安全素材と高性能換気を併用する事で、空気環境のきれいな住宅を実現させることができました。

③ 気密度

気密とは、室内と屋外の間で＜空気の出入り＞がないように隙間なく密閉することを言います。高気密を実現することによって省エネで快適な室温を保ち続けるメリットがあります。

測定結果

気密が高い（隙間が少ない）



気密が低い（隙間が多い）



換気扇やコンセント部が多く最も気密度が低くなるキッチンでの測定の様子

高気密型住宅のメリット

各公的機関に定められた基準値を大幅に更新し、高気密住宅である事が証明されております。

気密が高い＝外気が家の中に入ってこないため冷暖房効率が上がり、小さなエネルギーで快適な温度管理が容易になる為、高熱費の節約につながります。銭函モデルハウスでは「体験宿泊」をご利用頂く事で、これらのメリットをご実感頂く事ができます。